「奈良広陵九条の会」発足アッピール
いにしえから開けた古代のロマンが眠る町広陵から世界平和の力・憲法九条を輝かせよう

奈良広陵九条の会 ニュース

2019年2月発行　第27号
発行責任者　下村敏之
広陵町馬見南 4-1-5-3　Tel：0745-54-5138
ブログ：http://blog.goo.ne.jp/kory-nara

安倍9条改憲NO！3000万人署名が大きな力を発揮しています

署名母体の「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」は、昨年1350万筆を国会へ提出しましたが、その後も署名は全国で継続され更に大きく広がっています。私たちの奈良広陵九条の会でも皆さんのご協力により当初目標の700筆を超え1284筆に、また広陵町全体（「安倍9条改憲NO！広陵町民の会」が集約）では3584筆になっています。

安倍首相は、昨年秋の臨時国会であらゆる手段で自民党改憲案の提出と国会発議をやろうとしましたが、この署名の大きな広がりとそれに励まされた国会での野党の頑張りで思惑通りに進めることはできず失敗に終わりました。

しかし、安倍首相は改憲をあきらめていません。2月10日の自民党大会で「いよいよ立党以来の悲願である憲法改正に取り組む時が来た」「憲法にしっかりと『自衛隊』を明記して、違憲論争に終止符を打とう」と述べ改憲への執念をあらわにしています。3年前に作られた安保法制（戦争法）によって今の自衛隊は集団的自衛権の行使が認められ、装備もステルス戦闘機F35や長距離巡行ミサイルなど攻撃型兵器の拡大・強化が図られています。このような自衛隊を憲法に書き込む危険な安倍9条改憲を完全に断念させるため引き続き力を合わせて頑張りましょう。

3000万人署名を達成するため一層のご協力をお願いします

安倍首相の国会発言に背筋が寒くなりました

安倍首相は、国会で自衛官募集のために自治体に適齢期の青年の名簿提出を求めているが六割以上の自治体が協力していないと事実を歪めて自治体を非難しました。本人も保護者も知らないうちに自衛隊にだけ個人情報を提供するなどあってはならないことで、それを拒否するのはむしろ当然です。しかし安倍首相は、自衛隊を憲法に書き込めば「自治体が協力しないような空気は変わっていく」「改憲により社会を変える」と言い出しました。「自治体から若者の名簿を強制的に召し上げる」これが安倍首相の本音だとわかりました。自衛隊を九条に書き込んだら、今度は自衛隊を維持・強化するのは憲法上の責任と言って徴兵制を実施するのではないか。この発言を聞いて空恐ろしく、背筋が寒くなりました。

馬見南　山尾　繁美さん

3000万人署名に取り組んで

戦争の怖さを肌で感じることなく、他国の紛争を画像で見ることで心を痛めるだけの私ですが、嘘とごまかし、強権と民意無視の安倍政権、拡大する防衛費に怖さを感じています。3000万人署名を少しでも増やしたいと友人・知人に訴えました。その人達が沢山署名を集めてくれ元気をもらえた反面、今の平和はこのまま永遠に続くように思っている人が沢山いることを感じます。もっと九条の大切さを訴えていかなければいけないのだと思います。

笠　松崎 真子さん

宣伝・署名活動
2018.9.19 エコマミ 2F

前川喜平さん（前文部科学事務次官）講演会に ぜひご参加ください

自衛隊の大軍拡 ― 海外で戦争する国にさせてはならない

安倍内閣は昨年 12 月 18 日、新たな防衛計画の大綱と 2019 年度から 2023 年度までの中期防衛力整備計画（31 期中期防）を閣議決定しました。新しい防衛力の考え方として「多次元統合防衛力」を打ち出し、宇宙やサイバー、電磁波を扱う電子戦の能力を高め、陸海空の自衛隊が一体で対処する統合運用を進めるとしています。 5 年間の防衛力整備にかかる費用は 27 兆 4700 億円と過去最大です。

「いずも」型護衛艦を空母に改造する、地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」2 基の導入、最新鋭ステルス戦闘機 F35 の 105 機追加購入などが入っています。戦闘機を乗せた空母は守りのためのものではなく、攻撃用の兵器です。これまで日本を守るためだけの自衛隊と言っていたものが、すでに強行成立された安保法制、攻撃型兵器の大量購入による大軍拡によって、さらに、万一憲法 9 条の改憲がやられてしまったら、アメリカと一緒になって海外に出て行って戦争ができることになってしまいます。そんなことを絶対にさせてはなりません。

ステルス戦闘機 F35A

子どもや孫たちに 戦争をしない日本を引き継ぎたい

両親は戦争中に幼子 3 人を亡くしています。直接戦禍の犠牲になったのではありませんが、戦争さえなければの思いはずっと母の中にありました。3 人の話は帰省するたびに、母とのよもやま話の中で亡くなるまで続きました。

今、娘たちは子育て真っ最中、我が子を慈しんで育てています。安保法制反対の取組みの中で若いママたちが「誰の子どもも殺させない」と声を上げました。大切に育てた子どもを国家の戦争の犠牲にすることはできません。憲法 9 条をはじめとして改憲を許さないことが戦争をさせない唯一の道だと思います。

馬見北　加藤 和子さん